

平成 28 年 6 月 23 日

平成 27 年度 柏崎の個性・魅力づくり調査研究委託報告会 資料

学生と市民による地域の魅力発見・発信のための広報誌制作

新潟産業大学 経済学部文化経済学科
講師 権田 恭子

1. 本事業の目的

多彩な観光資源を有し、地域活性化に向けて大小さまざまな取り組みがなされている柏崎ではあるが、度々指摘されるのが、それらを「情報発信、PRが下手」ということである。市では「シティセールス推進協議会」が発足し、官民一体となって地域の魅力発信について検討されるなど、積極的な広報・PR活動はまちづくりにおいても今後ますます重要な課題であると自覚されている。

そこで本事業では、学生と市民がともに制作に参加し、柏崎地域の観光資源、地域活性化に関する諸活動、地域で活躍する人々など、地域の魅力について取り上げる広報誌を年数回発行し、この活動を通じて、柏崎地域の魅力を再発見し、それらを発信していくことを目的とする。特に地域の魅力発見という観点からは、西山地区に注目して、当該地区の行事や活動などを重点的に取り上げる。

すでに市内には多くの広報誌等の紙媒体が存在するが、本事業においては、広報誌を発行することだけを目的とせず、その制作プロセスにおけるワークショップで、活動に参加する学生、市民の広報・PR活動に係るノウハウの習得と、地域の魅力発信の可能性についての検討、課題の抽出も併せて行っていく。

2. 実施結果

(1) 広報誌等発行

本事業では下記の通り広報誌年3回ほかを制作・発行した。

- H27. 9. 30 「産大スポーツ第1号」(水球部インカレ準優勝記事/A4片面チラシ)
- H27. 10. 31 「大学生と地域のかけ橋 ローカレッジ Local×College」Vol.1 発行
- H28. 1. 31 「大学生と地域のかけ橋 ローカレッジ Local×College」Vol.2 発行
- H28. 3. 30 「大学生と地域のかけ橋 ローカレッジ Local×College」Vol.3 発行
- H28. 3. 30 「大学生と地域のかけ橋 ローカレッジ Local×College」抜き刷り
「地域とコラボしちゃいました ～新潟産業大学×地域の商品開発～」(A4判4頁)

<広報誌仕様>

A 4 版フルカラーオフセット印刷 コート紙 90kg 各 12 頁 中綴じ製本冊子

発行部数 Vol.1 : 4,000 部、Vol.2 : 5,500 部、Vol.3 : 4,500 部、産大スポーツ : 1,000 部、抜き刷り : 3,000 部

市内公共施設、コミセン、まちかど研究室などで配布。また、高校訪問、資料請求の際に各高校、高校生に配布。

編集には主に Adobe InDesign を使用する（素材の制作に Photoshop、Illustrator、Clip Studio を使用、また、入稿用データ制作に Adobe Acrobat を使用）。なお、当初購入予定であった Adobe Creative Cloud は、H25 年度より実施している青少年国際経済人育成事業「プレゼン・PR 能力育成事業」予算で購入できたため、本事業では執行しなかった。

<各号の内容>

◆「大学生と地域のかけ橋 ローカレッジ Local×College」Vol.1

経済経営学科 4 年権田ゼミの学生 5 名で制作。ゼミ活動の一環でもある「まちかど研究室」や「大学は美味しい!!」フェアにおける大学・地域連携の取り組みを中心に構成した。広報誌のタイトル「ローカレッジ」は「ローカル」と「カレッジ」を合わせた造語であり、学生の提案で決定した。初めての試みで学生が戸惑う場面もあったが、期待するレベルの作品に仕上がりに、Vol.2 以降を手がける学生にとって良いひな形となり、また、完成品のイメージが湧くことで参加学生の意欲、興味関心を引き出すことができた。

- ・ 柏崎の祭りと産大生 ぎおん柏崎祭り たる仁和賀、どんGALA!祭り
- ・ 産大スポーツ第 1 号 水球部インカレ初準優勝
- ・ 【特集 1】 地域とコラボしちゃいました ～新潟産業大学×地域の商品開発～
- ・ 【特集 2】 まちかど研究室
- ・ 刈羽中学校×産大教職課程学生 中学生が生み出した愛すべきキャラクターたち
- ・ 観光大使の部屋



写真 1 「大学は美味しい!!」フェア（左）、「まちかど研究室」（右）

◆「大学生と地域のかげ橋 ローカレッジ Local×College」Vol.2

文化経済学科3年梅澤・権田ゼミ（まちづくり・地方行政分野）の学生6名と、後述する本事業のデザイン講義を受講した4年生などで制作。ゼミ活動である「たかだ竹あかり」の準備段階から当日までの様子を紹介した。

また、Vol.2～3の2号連続特集「西山の伝統とこれから」を巻頭で取り上げた。この特集では、学生たちが柏崎市西山地区を訪れ、そこでの体験や出会った人、感じたことを自身の言葉で紹介していく。旧刈羽郡西山町は2005年に柏崎市に編入されたが、軽井川に位置する産大の学生にとっては、同じ市内とはいえ、比較的馴染みの薄いエリアのようである。西山の歴史や伝統的な行事、一方でこれからの西山をつくっていく子どもたちや新しい産業、「伝統」と「これから」の両側面から一つの地域の「今」の姿を見つめ、学生の視点でその魅力を再発見できた。

- ・【2号連続特集】「西山の伝統とこれから」草生水まつり、西山の未来を考えよう（西山教育振興会秋期研修会 於：内郷小学校）
- ・産大スポーツ第2号 卓球部、ライフセービング部、サッカー部
- ・たかだ 竹あかり
- ・産大文化部 書道部、放送部、吹奏楽部
- ・観光大使の部屋



写真2 草生水まつり（左）、「西山の未来を考えよう」（右）

◆「大学生と地域のかげ橋 ローカレッジ Local×College」Vol.3

教職課程2年の学生5名、デザイン講義を受講した1～3年生などで制作。Vol.2に引き続き、「西山の伝統とこれから」で、二田地区、石地地区を訪れた。特に二田物部神社を取材した学生は博物館学芸員課程履修者で、自身の興味関心をフィールドワークを通じて掘り下げる機会となった。また、産大スポーツでは、シーズンオフということもあり、試合結果中心ではなく、地域の小、中学生とのスポーツを通じた交流の様子を取り上げた。さ

らに「近隣のまちに学ぶ」では、柏崎市内の話題にとどまらず、長岡市、上越市の取材を通じて、柏崎市にも参考になることはないかとの視点からまとめられた。

- ・【2号連続特集】「西山の伝統とこれから」二田物部神社 弓始めの儀、石地わさび園
- ・産大スポーツ サッカー部、水球部 小中学生との交流
- ・まちかど研究室 冬のイベント報告（スタンプラリー、勉強カフェ）
- ・近隣のまちに学ぶ 長岡市、上越市
- ・観光大使の部屋



写真3 物部神社 弓始めの儀（左）、中学生とサッカー部の合同練習（右）

◆「大学生と地域のかげ橋 ローカレッジ Local×College」抜き刷り

「地域とコラボしちゃいました ～新潟産業大学×地域の商品開発～」(A4判4頁)

Vol.1の同タイトルの特集記事を4頁のリーフレットとして再発行した。大学×地域コラボ商品の開発と、それらを販売した「大学は美味しい!!」フェアへの参加は、近年、本学にとって様々な地域連携活動の成果発表の場として位置づけられ、大学の魅力づくりと同時に地域活性化に寄与する取り組みである。このリーフレットは主に高校生向けや、地域での本学教員による講演の機会などで配布され、今年5月に開催された「大学は美味しい!!」フェア会場でも配布した。

(2) デザイン講座、ワークショップの実施

大学のPC環境を活用し、大学やまちかど研究室などを会場に、広報誌制作のためのデザインソフトの基本操作や広報誌制作に係るノウハウの習得を目指した講座、ワークショップを実施した。学生の参加者に対しては、地域ボランティア活動の一環とみなし、地域通貨「風輪通貨」まちかど研究室バージョンを配布し（1時間あたり100フォン=100円／市内約30店の協力店で買い物券として利用できる）、本学のほかの地域連携活動との連動も図った。

◆「デザイン、広報誌制作講座」の実施

H27.10～H28.1 毎週水曜2限、金曜4限（各10回） 参加者：10名

産大の学生向けに Photoshop、Illustrator、InDesign の基本操作、誌面デザインの基礎を学び、実際に広報誌制作にも参加する講座を実施した。

- ・ Illustrator を使用したフライヤー制作
- ・ Illustrator を使用した地図、キャラクターの作画
- ・ Photoshop を使用した写真の補正、加工、合成
- ・ InDesign を使用した広報誌の制作（基礎、実践）
- ・ 誌面を構成する要素、効果的な誌面デザイン
- ・ 柏崎市立博物館で西山地区の資料の見学
- ・ 一眼レフカメラ、ICレコーダーを用いた取材の技法
- ・ 地域や大学の魅力を発見、紹介チーム毎に分かれての学内外での取材 ほか

また、権田ゼミナール4年、梅澤・権田ゼミナール3年（共同開講）、教職課程2年でも、適宜上記のような内容の指導を取り入れた。ここでは特にゼミ活動として自身がすでに取り組んでいる大学地域連携活動の関係者へのインタビューや自身の活動の記録、整理を行い、誌面にまとめ、地域に発信することを目指した。



写真4 産大プレゼンテーションルームでのデザイン講座、編集作業の様子

さらには、この講座の受講生には、習得したノウハウを、他の学生生活動の情報発信に実際に活用した学生もいた。

- ・学園祭「紅葉祭」ポスター、フライヤー制作
- ・学友会主催クリスマスパーティー ポスター、フライヤー制作
- ・「まちかど研究室」プロジェクト「勉強カフェ」フライヤー制作
- ・サッカー部広報誌「新潟産業大学 Football NEWS」創刊号発行（H28.5.1）

市民向けワークショップの実施については、下記の通り、学内外の他の事業と連動させながら開催した。

◆大学・地域連携推進事業「まちかど研究室」

H27.10.23 ミニ公開講座「パソコンでキャラクターを描いてみよう！」参加者：10名

Illustratorを使用した図形やキャラクターの描画の講座。わずか数日の告知で小学生から70歳代までの幅広い年齢層の参加者が集まり、市民のこうした内容の講座への関心の高さを実感した。しかし、実際には理解力や技術の個人差が大きかったため、世代別、目的別に開講した方がよいと感じた。すでに広報誌制作に関わっていたゼミ生がスタッフとして参加者をサポートすることで、スムーズに進行できた。



写真5 ミニ公開講座「パソコンでキャラクターを描いてみよう！」

◆青少年国際経済人育成事業「プレゼン・PR能力育成事業」

H27.10.31～11.1 新潟産業大学学園祭「紅葉祭」で「PCイラスト体験コーナー」企画実施。PhotoshopやIllustratorを使用したキャラクター制作の体験コーナー。小学生から社会人までが参加し、各ソフトの表現技法の違いを学びながら、イラストの彩色やキャラクターの描画を体験した。



写真6 「PCイラスト体験コーナー」

◆かしわざき男女共同参画推進市民会議 企画運営委員研修会

H27.12.8「リーフレット作成にむけて準備研修会」於：市民プラザ 参加者：13名

わかりやすい男女共同参画のパンフレットを制作するため、準備のための研修会で講演。学生の制作した広報誌等を例に挙げ、誌面の構成やデザインソフト等について解説した。

3. 事業の成果と今後の課題

◆広報誌制作に参加した学生の声

○広報誌制作に関わって学んだこと

- ・実際に大学を出て、地域の神事に参加したことが自身の中でとても大きかった。
- ・私は県内出身者だが、柏崎生まれではないので、大学生活のうちに地域についてもっと知ることができるよう頑張りたい。
- ・地域への思いがより強くなった。
- ・ソフトの使い方を学んだり、取材文章を書く経験をしたことで、自分に自信がついた。
- ・苦手意識のあった取材に対して抵抗が少なくなった。
- ・雑誌を読む際に「これは参考になる」、「これはどう作ったのか」などが気になるようになった。

○今後どのように活かしていきたいか

- ・学んだことを将来の就職活動の時に活かしていきたい。デザイン系の大学、専門学校以外ではなかなか無い、貴重な経験ができた。
- ・大学の授業や部活、仕事、趣味など様々な面で知識と技術を活かしたい。
- ・社会に出て役立つレベルまで技術を身につけたい。
- ・雑誌の編集者になることを考えた。
- ・現在4年生で就職活動中だが、広報誌制作を経験したことをアピールポイントとして話ができるようになった。
- ・広告会社や出版社という選択肢を積極的に視野に入れるようになった。

◆事業の成果

- ・学生の制作した広報誌によって、若者の視点からまとめられた大学や柏崎地域の魅力を発信し、地域の方や高校生等に伝えることができた。
- ・学生はデザインソフトの基本操作や広報誌制作の基礎知識を習得し、学生自身が関わっている大学・地域連携活動を自身の言葉と感性で誌面に表現し、地域に向けて情報発信することができた。

- ・学生にとってあまり馴染みのなかった西山地区の取材、紹介によって地域の新しい魅力を発見することができ、そこでの活動や人々に対して愛着を持って接することができた。
- ・広報誌制作を通じて、広報やまちづくりに関わる仕事に興味関心を持つ学生もあられ、進路を考える上での一つの材料を提供できた。
- ・市民に対しての講座では、参加者はデザインソフトを活用して表現することの面白さを知り、作品完成までは至らない場合こそ多かったが、コンテンツ制作や情報発信に興味関心を持ってもらうことができた（自身の活動への応用ができるかという相談も複数あった）。

◆今後の課題

学内の学生においては30名が広報誌制作に関わることができ、これを契機に情報発信に一層興味関心を持つようになった学生も見受けられるが、当初の目標であった、学生が指導のサポートをしながら、市民も巻き込んだ形での広報誌制作というかたちにはたどり着けなかった。この要因として、今回は3冊の広報誌制作に各号で異なった学年、チームを主体とした学生が携わっており、毎号が初挑戦の学生たちによるものであったため、自信の知識、技術にさらに磨きをかけ、自分が学んだノウハウを市民に伝えるレベルまで到達していなかったことが挙げられる。そのため、市民に対しての講座はデザインソフトの初歩の体験程度のものしか提供できず、広報誌制作に直接つながるワークショップの実施は今後の課題である。

広報誌制作はH28年度も学内の資源を活用し、継続していく予定である。今年度初めて本学の正規の授業科目（教養科目）である「教養演習A」において、昨年度自主講座として実施したデザイン講座の内容を引き継いだ科目を開講し（履修者12名）、前年度の講座を受講していた学生（4名）については、より発展的、実践的な課題に挑戦している。広報誌「ローカレッジ」はVol.4、VOL.5、特別号を発行予定である。

2年目の活動の中では、市民と学生がともに大学や地域の魅力について議論し、ともに情報発信をしていく機会をもつことを目標とする。すでに一部学生が学んだことを部活動等の情報発信に活用しているように、市民の参加者各人が所属する学校、団体、地域等でより効果的な情報発信をすることができ、市民による市内の様々な魅力の発信が活発化することにつなげていきたい。